

# 春の褒章

受賞者プロフィール



み うら よし やす  
三浦芳靖さん

※瑞宝双光章※

調停委員功勞 米穀流通業振興功勞  
元調停委員 元県米穀小売商業組合理事

思いもかけない重い「章」を受け驚いています。調停委員として永年務めました。家事調停では離婚、それに伴う養育費や親権問題など、民事調停では多重債務者の特定調停などで申立人と相手方双方が合意できるよう努力してきました。また、米穀小売業において凶作に見舞われた時など、円滑な流通に寄与したと思っています。今回の受賞は一緒に仕事をした人たちの代表として私がいただいたと考えています。これからも社会に少しでもお役に立ちたいと思っています。



よね ざわ のぼる  
米沢登さん

※瑞宝単光章※

統計調査功勞  
各種統計調査員

国勢調査を昭和35年から通算10回、農業センサス、企業統計調査、住宅地調査を長くやってきました。郊外のかたはみな協力的ですが、市街のかたは調査を理解してくるまでに時間がかかり、調査しづらいことがたくさんありました。市役所の調査担当課の職員の指導・協力により、問題なく職務を遂行できました。調査が農作業の時期と重なるため、家族には大変迷惑をかけた。長年続けられたのも家族の協力があつたからと考えています。



しら やま しん きち  
白山新吉さん

※瑞宝単光章※

消防功勞  
元和田地区消防事務組合消防司令長

昭和30年9月から58年3月末まで消防一筋で、与えられた職務を全うする毎日でした。常備消防、消防本部、消防署、広域消防へと消防組織改編の中で、さまざまな研修に行かせていただき、組織拡大に寄与できたと思います。消防職に携わる者としては、先輩の指導、同僚・後輩の協力がなければ、この度の春の褒章受賞はありませんでした。この場をお借りして、各位のお導きのたまものであると深く感謝しています。

問い合わせ先

総務課(☎内線156)

# 芸術文化ゾーンだより

現代アートの世界②

市で整備を進めている野外芸術文化ゾーンに関連する話題を紹介しています。

現在、日本で一番海外に輸出されている「文化」と言えば、アニメや漫画、コンピュータゲームといったサブカルチャー(サブカル)大衆文化(こと)が挙げられます。日本製のアニメは海外でも大人気です。

日本の現代アート界にも、村上隆、奈良美智、会田誠などサブカル的要素を作風に取り入れる作家が増えています。彼らが海外でも高く評価されるのも、日本のサブカルル気が背景にあるといわれます。2005年、村上隆氏が「おたく文化」をテーマに、ニューヨークで企画した「リトルボーイ展」は、国際美術評論家連盟アメリカによる、高い評価を受けました。会場ではアート作品の他、フィギュアやマスコットなども展示されました。

いわゆるサブカルのアートへの取り込みは、1960年代のポップアート(広告や漫画などを素材として扱った芸術運動)の流行以来盛ん



ニューヨークにおける「リトルボーイ展」の大型掲示  
Takashi Murakami, Eco Eco Rangers Earth Force  
© 2005 Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd.  
All Rights Reserved. Photo credit: Sheldon Collins.



「ガンダム展」の会場風景 ©2005 Nishio Yasuyuki  
西尾康之「crash セイテ・マス」  
©創通エージェンシー 2005年7月15日～8月31日 写真提供:同館

問い合わせ先  
企画調整課(☎内線162)

になりました。本市の現代美術館ではサブカル的作風を持つ作品はありませんが、全国の美術館では近年、漫画や映画などをテーマとした企画展が増えてきました。また「ガンダム展」(2005～07年国内6カ所を巡回)のように、特定の漫画のキャラクターを、現代アーティストにより作品化した展覧会も行われています。

市場原理に基づき大量生産・大量消費されるサブカルとは対照的に、「アート」には、一見、受け手を選別する高尚なイメージがあります。しかし、実際には、アートとサブカルは融合しつつあり、現代アートもサブカルの影響抜きに語ることはできないといわれています。